



## 中学校の新指導要領全面改訂



中学校の新指導要領は来年4月から全面实施されます。

現在は移行措置期間なので、数学や理科などの指導内容が地域によって多少異なっていますが、来年からは新しい教科書が導入されますので、指導内容は統一されていきます。

中学校の「新しい教科書」はか・な・り分厚くなります。

英数国理社5教科をすべてあわせると、約4000ページになります。ゆとり教育の始まった2002年が約2800ページ、2006年が約3000ページなので、5教科だけで約1.33倍です。9教科全体では約1.24倍になります。

特に、理科は各社平均で約1.45倍(2006年比)、数学は約1.33倍と大幅にページ数が増加します。

ページ数が増加した要因としては、旧課程の復活ももちろんありますが、一番大きな影響は「**復習問題**」の増加にあります。

例えば、中3数学では、約40ページが中1・2の復習問題で、自習できるようになっている教科書があります。また中1国語は、10%ほどが 小学生の漢字の復習問題になっている教科書もあります。(ほかにも、理科・社会だけでなく**保健体育**でさえ、**復習問題**が掲載されています。

復習問題をたくさん掲載することで、「**スパイラル学習**」が定着し、「**復習こそが学習の基本**」と言わんばかりになってきます。

各単元の前半は前学年の復習がほぼ盛り込まれ、そこから新しい学習内容へと進んでいく授業カリキュラムになってくると予想されます。

中学校の新しい教科書には、ほかにも新しい試みがたくさん掲載されています。

例えば、中3の公民では、

「あなたが総理大臣になったら何をやる?」といったものや、「世界中で起こっている貧困問題をどう解消するか?」といったようなことをレポートで書き、みんなで発表しあう授業などもあります。国語では、**朝の読書時間専用**の長編作品やブックリストを各社掲載しています。

このようなことからわかりますが、今後の中学の授業では「言語活動」がとても重視されます。

計算や漢字などの基礎学力も大切ですが、これからの高校入試では、**文章表現能力**や**記述表現**を試され

るテストが多くなってくると思います。

### <教科別中学校の新しい教科書の主な変更点>

#### 国語

- ・近代文学から「坊っちゃん」「高瀬舟」「走れメロス」などを扱う。
- ・あさのあつこ、重松清、浅田次郎など現代作家の作品を重視。
- ・常用漢字の増加。

#### 数学

- ・球の表面積と体積、有理数と無理数を必修とすることで、それに類する内容が増加。
- ・間違い例を掲載して、誤りを説明させる設問の導入。
- ・言葉で説明する問題が増加。

#### 理科

- ・分野別から学年別の教科書に。
- ・1年:力とばねの伸び、水圧 2年:電力量、生物の変遷と進化 3年:放射線、イオンなどが復活。
- ・ノーベル化学賞を受賞した根岸英一、鈴木章両氏の掲載。

#### 社会

- ・1地方につき10ページ前後増加。
- ・キーワードからの短文作成。例えば「政権交代を説明しなさい」など。
- ・裁判員裁判を推理小説仕立てのシミュレーションを導入。
- ・「掃除当番の決め方」など身近な話題も取り入れる。

#### 英語

- ・単語が900語から1200語に増加。
- ・英語でのコミュニケーション能力向上を目指す。  
例えば「学校の英字サイトをつくる」など。
- ・長文読解だけでなく、**英文を書かせる問題**が増加。

今回の中学校の教科書改訂により、教科書はかなり分厚くなります。持ち歩くのも重くなるので、子供たちの負担は勉強量だけではなさそうです…。



### ■授業実施

11/3(木・文化の日)11/23(水・勤労感謝の日)は通常通り授業を行います。

11/29(火)・30(水)は第5週目にあたり、通常授業はありませんが、

**強化授業は実施します。**

## ■ 期末試験強化授業

### ○ 山手中・平岡南中

試験日 11/22(火)・24(木)・25(金)

強化 21(月)・23(水)・24(木)

### ○ 中部中

試験日 11/25(金)・28(月)・29(火)

強化 24(木)・26(土)・28(月)

### ○ 神吉中・浜の宮中・播磨南中・平岡中

試験日 11/28(月)・29(火)・30(水)

強化 26(土)・28(月)・29(火)

### ○ 鹿島・宝殿中

試験日 11/29(火)・30(水)・12/1(木)

強化 28(月)・29(火)・30(水)

### ○ 志方中・別府中

試験日 11/30(水)・12/1(木)・12/2(金)

強化 29(火)・30(水)・1(木)



### 落合解任に思う

中日ドラゴンズの落合監督の退任が決まった。退任というより解任といったほうがいいのかも。監督としてドラゴンズ球団史上初の2連覇を達成し、8年間はすべてAクラスであったのにもかかわらずだ。それも、シーズン終盤ヤクルトと優勝を争っているさなかの解任発表だった。

彼は実績を残した名監督と言っていい。名監督には名監督にふさわしい解任劇があり、落合監督にもプライドがある。それをズタズタに切り裂いた球団は冷酷としか言いようがない。

球団にも言い分はあるだろう。4億円と言われる監督の高年棒。「勝つことが最大のファンサービス」だとし、ファン感謝デーにも出ることなく、ファンサービスにはあまり乗り気ではなかった。

勝っただけではファンはついてこなかった。観客動員数は08年をピークに約30万人も減ってきた。

名古屋という土地柄は特殊だ。地元出身の選手や生え抜きの選手を歓迎するファン気質がある。そんな中で落合監督は、コーチングスタッフにも地元出身者でなく、勝てるチーム造りのために実力ある最良のスタッフを

選んだ。これも球団は快く思っていなかった。しかし、落合イズムはコーチングスタッフや選手間に確実に浸透し、しぶとく得点を重ね、1点を守る野球で勝ち進んできた。

また、落合再生工場と言われるように、球団に見捨てられ、切り捨てられた選手を多く獲得した。「おまえら、くやしんだらう。くやしかったら、くやしさをぶつけろ」この言葉でよみがえった選手は多くいた。元巨人のリリーフエース河原とバンドの名人川合、元オリックスの剛球投手平井、彼らはピークをとくに過ぎていたいわばロートル。しかし、彼らの経験と意地に期待したのだ。彼らは見事よみがえり、河原(ていつては、優勝を決める巨人戦にあえて投げさせた。

チームの補強に高額を投入する巨人・阪神などと違って、現有勢力でその持つ能力を最大限に引き出す見事なまでの采配だった。監督の仕事はチームを勝ちに導くこと。一点を守り抜く野球は、スリルのないつまらない試合だと周りから言われようが、選手時代から“オレ流”を貫き、指導者になってもわが道を貫いた。

象徴的なシーンがあった。07年の日本シリーズ、8回まで完全試合を続けていた山井投手を代え、抑えのリリーフエース岩瀬に交代させた。これも「記録よりチームの勝利」を貫いた非常ともいえる彼の監督観の最たるシーンだった。

球団は「新しい風を入れたい」と起用した次期監督は高木守道氏。生え抜きバリバリの元中日選手だ。しかし、年齢は70歳。これで新しい風と言えるのであろうか。落合監督が去り、コーチングスタッフも総入れ替え、これで球団が言う「強いチームの基盤はできた」といえるだろうか。

落合監督あっての中日ドラゴンズの戦績ではないだろうか。チーム打率の最下位の中日ドラゴンズを優勝に導く監督は落合以外にない。残念ながらチームの凋落ぶりは容易に想像できる。巨人ファンの私にとってはうれしいことではあるが、一抹の寂しさを感じる。球団はファンは落合監督が去ってはじめて気づくだろう。かれがどれだけすばらしい監督であったかを。

(塾長 ホームページコラムより)

### ☆ 神吉中学東播駅伝大会で健闘 !!

#### ▼ がむしゃらに過去最高2位 神吉中

神吉は過去最高の2位となり、9年ぶりの県大会切符を獲得した。昨年は、同タイムで8~10位がゴールする激戦で、神吉は着差で9位。選手らは「次こそは絶対に」と、雪辱を誓い合ってきた。

県大会のコースを試走するなど、意識を高めて臨んだ今年の地区大会。アンカーの3年佐藤愛選手が「がむしゃらに走るしかない」とトラック勝負を制し、2位でゴールすると、歓喜の輪ができた。3年岸本千尋主将は「チームの心が一つになれた」と胸を張った。

(神戸新聞より抜粋)

